

## 4月は値上げラッシュ

### ●家計に直撃する春の料金見直し

毎年、新年度が始まる4月には、さまざまな商品の値上げが実施されますが、今年はビール、ワイン、納豆、タバコなどなど、生活に密着した幅広い分野での値上げが予定されています。

今回は、この春値上げされる商品やサービスについてみていきます。

### ●ビール大手企業が一斉値上げ

昨年末、ビールメーカー大手各社が相次いで値上げを発表しました。理由は、2017年6月施行の改正酒税法で酒類の過度な安売りが規制されたことや、輸送費の高騰などです。対象となるのは、樽や瓶に入ったビール類(ビール、発泡酒、第三のビール)とサワーの一部などで、ビール大瓶(633ml)の店頭価格は10%程度上がる見通しです。

なお、缶入り製品は対象外ですが、酒販店やスーパーなどの小売店だけでなく、居酒屋などの飲食店での提供価格も引き上げられる可能性があると考えられています。

また、一部の輸入ワイン、国産ワインについても3~5%程度値上げされる予定です。輸入ワインはワイナリーの蔵出し価格の上昇、輸入ブドウを使う国産ワインは原材料価格の上昇が背景にあります。

大人の嗜好品といえば、タバコもこの春、値上げが実施されます。2015年の税制改正により、「わかば」「エコー」など、旧3級品6銘柄について、2017~2019年までの3年間、毎年4月1日に税率を段階的に引き上げることが決定されており、これに対応したものです。

2017年の1回目の値上げでは、全銘柄1箱30円の値上げが行われ、2回目となる今年4月1日からは、全銘柄1箱40円の値上げとなります。

また、10月は紙巻タバコのタバコ税が1本あたり3円増税される予定となっており、消費税率が10%となる2019年は見送り、2020年度、2021年度に再び1円ずつ引き上げ

られる方向です。

### ●食品や日用品でも原材料価格や物流費が上昇

家庭の食卓に影響する商品として、パックご飯や冷凍食品などの値上げがすでに実施されていますが、加えて4月からは納豆の大手メーカーが値上げを発表しています。

対象は4月1日から出荷される商品の一部で、出荷価格が10~20%アップします。同社での出荷価格の改定は1990年以来、27年ぶりとのことで、値上げの理由は原材料や包装資材価格、人件費、物流費の上昇としています。

トイレットペーパーやティッシュといった家庭紙の卸価格についても、製紙大手で4月21日出荷分から10%引き上げられます。値上げの主因は、製紙用パルプ価格の高騰。家庭紙に使用される北米産のクラフトパルプは2017年の1年間で約4割価格が上昇しました。また、中国を中心に需要が大幅に拡大していることに加え、設備トラブルで供給が減っているようです。さらに、人手不足による物流コストの上昇も要因のひとつです。

### ●電気料金・引越し料金も上昇

電力会社大手は、原油高の影響を受け4月の検針分から電気料金の値上げを発表しています。同社傘下の小売業者では、平均世帯の使用料260キロワット時の料金が、3月よりも72円高い6,793円となる見込みです。

引越し業界でも運転手や作業員が不足しており、各社、単身者向けの引越しで5,000円の割増料金を設定しています。また、ある業者では法人向けで最大1割程度の値上げを要請しています。

業者側の背景としては、労働環境の見直しによる人手不足があり、社会的な背景としては、単身世帯の増加があるようです。

## 東京今昔物語486

## 現代の靴をつくった元武士

3月15日は「靴の記念日」。日本で西洋の靴が履かれるようになったのは、江戸末期から明治の始めにかけてのこと。しかし、その多くは輸入された軍靴でした。そこで、陸軍創始者の大村益次郎は「日本人にあった靴をつくるように」と、下総佐倉藩を脱藩し、商人へと転身した西村勝三に提案。こうして



1870(明治3)年3月15日、築地に初めて近代的な靴の工場が誕生しました。当時、築地の明石町一帯は外国人居留地だったこともあり、靴の需要が多く、工場は順調に操業。今では、靴工場のあった中央区入船3丁目「入船橋交差点」付近に建つビルの植栽に「靴業発祥の地」の記念碑が佇んでいます。